

## プロジェクト代表者

一般教育等 教授 八木 宏樹

## 研究テーマ

二級河川余別川（北海道積丹町）におけるサクラマス・サンクチュアリをコアとした地域活性化方策の検討と冬季環境調査

## 研究実績の概要

本事業では、積丹町・余別地区の「自然環境」と「生物資源」を両輪とした余別川の自然の豊かさをアピールし、「今後の余別川の自然を活かした地域振興のあり方」を検討するため、冬季に9回（うち2回は事前調査）の現地調査（環境測定など）と1回の地域勉強会を開催し、環境データの収集と地元住民らの意見収集を行いました。環境調査の結果からは、余別川は全国でも類を見ないほど自然環境が保全されている河川であることが判明しましたが、これをどのように地域振興資源とするかなど、具体策にはつながっていません。今後は、余別地区にあるサクラマス・サンクチュアリセンターを中心に、すでにある程度活動が活発になってきているサクラマス資源保全のための活動などと関連づけて、新たな振興策を検討することになりました。このため、今回構築した研究体制（ネットワーク）を維持しながら、より詳細な調査や地域勉強会を継続することで地域との合意が得られ、新たなステップに入りました。

## プロジェクト代表者からのコメント

余別川がきれいな河川であることは、地域住民も十分に承知しています。ただし、それが「どの程度きれいか」や「都市部の人たちにはどのように映るのか」などは判然としておりません。今回の作業は余別川の高い自然価値を数値で表すための作業です。また、余別川は冬季は雪に埋もれるため、冬季の環境データ（水質データや生物データ）がまったくありませんでした。今回、雪の中の厳しい作業でしたが、冬季のデータを得ることができたことは、今後の余別川や地域振興を考える上で貴重な資料となり得ます。「水環境」を考える場合には、その人が住んでいる地域（都市部であるとか、自然豊かな土地であるとか）や、年齢、職業によって大きく異なります。今後は、今回得られたデータを基礎に、余別川の高い自然価値を、環境省などが提唱している「水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）」を用いて解析し、都市部の人たちに向けて、客観的なデータとしてアピールしていくつもりです。